

# 決 議

国連児童基金(ユニセフ)は、世界各国の新生児死亡率を比較する報告書を発表し、「赤ちゃんが最も安全に生まれる国」として日本を高く評価した。世界医師会長に就任された横倉義武日本医師会長は、「生涯保健を通じて健康寿命の延伸を目指すとともに、わが国の優れた医療技術をグローバルな形で広げていきたい。」との考えをお持ちである。日本が、G8 を始めとした国際的な会議の舞台において“ヘルス”をテーマに取り上げ続けていることは我々の大きなレガシーである。

平成 30 年度は 6 年ぶりの診療報酬・介護報酬の同時改定であり、北海道においては、第 7 次北海道医療計画や北海道保健医療福祉計画をはじめとした合計 17 本の計画がスタートする“惑星直列”の年である。道内各地域の状況を十分に考慮しながら慎重に計画を進めていく必要がある。

われわれ医師は一致団結し、国民が安心して日常生活を送ることができるように良質な医療を確保・提供し続けなければならない。

その実現のため、以下の事項を決議する。

## 記

- 一、世界に冠たる国民皆保険を堅持すること
- 一、十分な社会保障費を確保し、今以上の保険診療の萎縮と患者の医療費負担増を招かぬよう配慮すること
- 一、医療と介護の連携のもと、地域医療構想の具体的展開や地域包括ケアシステムの構築に十分資するよう、地域医療介護総合確保基金をさらに柔軟に活用できる仕組みとすること
- 一、医師不足、医師の地域・診療科偏在への対応については、地域の実情を十分に尊重すること
- 一、医師の働き方改革については、国民が求める医療ニーズに対応できるようにしつつ、職業としての専門性と独立性を十分に尊重しながら進めること
- 一、新専門医制度は、地域医療の崩壊を招くことのないよう実施するとともに、医療関係者はもとより国民からも信頼される制度とすること
- 一、メディカルウイング(医療優先固定翼機)については、社会的ニーズに対応可能なように計画搬送以外にも適用範囲を拡大すること

平成 30 年 3 月 18 日

一般社団法人北海道医師会  
第 151 回臨時時代議員会